

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1166		
科目名	教養特殊講義 6		
担当教員	宮川 正		
対象学年	1年	開講学期	後期
曜日・時間			
講義室		単位区分	選
授業形態	講義	単位数	
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	文化教養		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP7-C [他者理解・倫理観・公共心] 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP2-A [日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢] 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的におこない、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。 DP1-D[市民的素養・市民的教養] 市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。 DP4-I[理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 A 1 グローバル感覚： 2 5 % D 1 市民的要素と参加： 3 0 % I 1 理解・分析と読解： 2 5 % I 3 情報分析： 2 0 %		
教員の実務経験	本校卒業後、航空自衛隊に入隊、以来 4 0 年余り国の安全保障にかかわる業務に従事しました。当初は戦闘機パイロットとして日本の空を守る対空侵犯措置任務などの勤務に就き、その後は指揮官職（基地司令、方面隊司令官）などの勤務を経験しました。その間、米国留学や防衛駐在官勤務（米国）を経験するとともに、実任務としてはイラク復興支援任務に従事し、自衛隊の海外任務の先駆けとなりました。本授業では実務経験の実例を示しながら、どのように危機に対処してきたかを危機管理学部、スポーツ科学部に関係なく分かりやすく講義します。（第 2 ～ 14 回）		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 1 萌芽期～ 2 進行期		
科目概要・キーワード	日本を取り巻く安全保障環境はめまぐるしく変化しています。その中において国を守るとはどういうことなのか、そしてあらゆる危機に適切に対応して行くにはどうしたらいいのか。授業では、自衛隊の各種活動、米国同時多発テロ、東日本大震災、日本周辺国の情勢（北朝鮮、中国、ロシア）、新型コロナパンデミック、ウクライナ情勢等を題材とし、各事案に対して担当教員の実務経験を踏まえて考察していきます。授業形態は講義により行います。 ■キーワード：自衛隊の活動、9. 1 1 テロ、日本周辺国の情勢、感染症、ウクライナ		
授業の趣旨	■副題：危機の実態を実例から捉える能力の取得 ■授業の目的：これまで対応してきた国際情勢の現状と課題を把握することにより、受講者自らが当事者であればどうするかを考察することを目的とします。 ■授業のポイント：危機に直面した時の対応に正解はありません。しかしながら事例を理解・分析することにより、次に起こりうる危機への準備はできます。		
総合到達目標	■全般を通じて国際情勢に関連する危機の実例を知識として学修し、自らが当事者として実行できる技能を修得する。さらに、将来起こりうる危機に対する準備をする態度を修得する。 ・自衛隊の活動について具体的に述べるができる。（第 2 ～ 3 回） ・米国同時多発テロで何が起こったか述べるができる、これに対して日本が行った活動について説明することができる。（第 4 ～ 5 回） ・東日本大震災の教訓を列挙することができ、震災への備えを具体的に述べるができる。（第 6 ～ 7 回） ・日本周辺国の情勢について述べるができる、日本が行っている活動について説明することができる。（第 8 ～ 1 0 回） ・新型コロナパンデミックやウクライナ情勢など、現在進行中の事案について述べるができる、今後の動向について推論することができる。（第 1 1 ～ 1 4 回）		
成績評価方法	■リアクションペーパー、5 回（5 0 %）：適用ルーブリック A 1、D 1、I 1、I 3 （評価の観点）：授業の内容を踏まえ、自ら考え理解しようとしているかを評価します。 （フィードバックの方法）：次の回の授業において解説します。 ■レポート 1 回（5 0 %）：適用ルーブリック A 1、D 1、I 1、I 3 （評価の観点）：授業の内容を理解し、自らの言葉で説明することが出来ているかを評価します。 （フィードバックの方法）：提出後、解説を行います。		
履修条件	特に設けません。		
履修上の注意点	専門的な用語が多く出てきます。予習や復習によって授業の効果を高めましょう。		
授業内容	回	内容	
	1	①授業テーマ：授業ガイダンス ②授業概要：授業の構成、テーマ及び内容、スケジュール、評価の方法等について説明を行います。（D 1） ③予習（1 2 0 分）：シラバス全体をよく読んで、授業全体の構成について把握しておく。 ④復習（1 2 0 分）：授業全体の構成、授業の目的と到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。	
	2	①授業テーマ：自衛隊の活動（対空侵犯措置） ②授業概要：自衛隊の活動の一つである対空侵犯措置について理解できる。 担当教員の実務経験を踏まえて説明します。（A 1、D 1、I 1） ③予習（1 2 0 分）：自衛隊の活動にはどのようなものがあるか調べておく。	

	防衛省HP https://www.mod.go.jp/ ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
3	①授業テーマ：自衛隊の活動（災害派遣） ②授業概要：自衛隊の活動の一つである災害派遣について理解できる。 担当教員の実務経験を踏まえて説明します。（A1、D1、I1） 第1回リアクションペーパー（2～3回授業）を実施します。 ③予習（１２０分）：自衛隊の災害派遣例について調べておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
4	①授業テーマ：米国同時多発テロ ②授業概要：9.11テロの概要について理解できる。 担当教員の実務経験を踏まえて説明します。（A1、D1、I1） リアクションペーパーの解説をします。 ③予習（１２０分）：9.11テロについて概要を調べておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
5	①授業テーマ：対テロ戦争（日本のイラク人道復興支援） ②授業概要：対テロ戦争及び日本が参加したイラク人道復興支援について理解できる。 担当教員の実務経験を踏まえて説明します。（A1、D1、I1）。 第2回リアクションペーパー（4～5回授業）を実施します。 ③予習（１２０分）：日本が参加した対テロ戦争の概要について調べておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
6	①授業テーマ：東日本大震災1 ②授業概要：東日本大震災（地震・津波）について理解できる。 担当教員の実務経験を踏まえて説明します。（A1、D1、I1）。 リアクションペーパーの解説をします。 ③予習（１２０分）：東日本大震災の概要（地震・津波）について調べておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
7	①授業テーマ：東日本大震災2 ②授業概要：東日本大震災（福島原発事故）について理解できる。 担当教員の実務経験を踏まえて説明します。（A1、D1、I1） 第3回リアクションペーパー（6～7回授業）を実施します。 ③予習（１２０分）：東日本大震災の概要（福島原発事故）について調べておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
8	①授業テーマ：北朝鮮 ②授業概要：北朝鮮の核・ミサイル開発に対する日本の対応について理解できる。（I3） リアクションペーパーの解説をします。 ③予習（１２０分）：朝鮮民主主義人民共和国について調べておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
9	①授業テーマ：中国 ②授業概要：最近の中国情勢と日本の対応について理解できる。（I3） ③予習（１２０分）：中華人民共和国について調べておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
10	①授業テーマ：ロシア ②授業概要：最近のロシア情勢（ウクライナ情勢除く）と日本の対応について理解できる。（I3） 第4回リアクションペーパー（8～10回授業）を実施します。 ③予習（１２０分）：ロシア連邦について調べておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
11	①授業テーマ：新型コロナパンデミック ②授業概要：新型コロナパンデミックに対する日本の対応について理解できる。（A1、D1、I1） リアクションペーパーの解説をします。 ③予習（１２０分）：新型コロナ関連についてこれまでの経緯を調べておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
12	①授業テーマ：ウクライナ情勢 ②授業概要：なぜウクライナ危機が起こったか。これに対する日本の対応について理解できる。（I3） ③予習（１２０分）：これまでのウクライナ情勢の経緯について調べておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
13	①授業テーマ：リーダーシップとフォロワーシップ ②授業概要：危機に対応する際に重要な要素となるリーダーシップとフォロワーシップについて理解できる。 担当教員の実務経験を踏まえて説明します。（A1、D1、I1）。 第5回リアクションペーパー（11～13回授業）を実施します。 ③予習（１２０分）：リーダーシップ、フォロワーシップとは、について調べておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
14	①授業テーマ：最新の事案について ②授業概要：講義開始以降、半年間で発生した事案について取り上げ、その内容が理解できる。（I3） リアクションペーパーの解説をします。 ③予習（１２０分）：これまでの授業でまとめた資料を読み返しておく。 ④復習（１２０分）：授業の内容を踏まえ資料をまとめておく。
15	①授業テーマ：まとめ ②授業概要：これまでの授業内容をおさらいし、レポートの課題を示します。 ③予習（１２０分）：これまでの授業でまとめた資料を読み返しておく。 ④復習（１２０分）：これまでの授業の資料をまとめておく。
関連科目	「危機管理概論Ⅰ及びⅡ RMGT 1301/1302」「安全保障論Ⅰ及びⅡ RMGT 3551/3554」「防衛法制 RMGT 3452」「防衛政策 RMGT 3557」
教科書	授業資料は毎回指示します。
参考書・参考URL	内閣府HP https://www.cao.go.jp/ 内閣官房HP https://www.cas.go.jp/ 防衛省HP https://www.mod.go.jp/ 外務省HP https://www.mhlw.go.jp/ 厚生労働省HP https://www.mofa.go.jp/
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。

	■オフィスアワー 火曜 2 限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントを取るにより研究室で対応します。
研究比率	

